

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 エイズ対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111(内 4655)

E-mail: c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,243 千円 (前年度予算額：1,400 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,400	700	0	0	0	0	0	0	700
要求額	1,243	621	0	0	0	0	0	0	622
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

エイズのまん延は、欧米及びアジア諸国をはじめ世界的に深刻な状況にあり、わが国でもエイズ患者は年々増加の傾向にある。

男性同性間の性的接触による感染の増加、H I V抗体検査件数の減少等新たな局面を迎え、エイズ患者・H I V感染者に対する治療、ケア等の充実及び県民への正しい知識の普及に努め、エイズのまん延防止を図るため、積極的に対策を講じていく必要性がある。

(2) 事業内容

ア 岐阜県エイズ対策推進協議会の開催

学識経験者、病院関係者、介護福祉関係者の代表者等からなる協議会を開催し、全県的なエイズ対策の方針を協議する。

イ エイズ教育促進事業

保健所担当職員による中高生への出前講座、乳児健診及び母親学級等の機会を捉えた母親へのエイズの知識の普及(講習、パンフレットの配布)、高齢者福祉施設職員への講習会を行う。

ウ 針刺し事故によるH I V感染防止体制の整備事業

医療機関において、万一、針刺し事故が発生した場合の対策として、地域の拠点となる病院に予防薬を配置する。

エ エイズ相談員研修事業

患者、感染者及び感染に対する不安を払拭するためのカウンセリング技術等を習得する研修会に、エイズ治療拠点病院の看護師等を派遣する。

オ エイズ特別研修事業

国立保健医療科学院「エイズ特別研修」に、保健所の保健師を派遣し、エイズ対策に関する専門的な知識を有する職員の育成を図る。

カ 個別施策層対策事業

ボランティア団体、岐阜大学病院医学部附属病院等の協力を得て、男性同性愛者（MSM）等を対象とした普及啓発活動を行う。

（3）県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
報償費	233	協議会委員、講師謝金
旅費	351	業務旅費、費用弁償
需要費	476	パンフレット、チラシ、針刺し事故予防内服薬等
役務費	8	電話代
委託料	150	無料H I V検査会MSMへの検査受診勧奨・予防啓発委託
使用料	15	協議会等会場使用料
負担金	10	エイズ相談員研修受講料
合計	1,243	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

岐阜県保健医療計画

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
エイズ患者・HIV感染者に対する治療、ケア等の充実及び県民への正しい知識の普及により、エイズのまん延防止を図るとともに、エイズに対する偏見・差別を払拭する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
無料 HIV 検査会受検者数	(H)	17人 (H29)	43人 (H30)	36人 (R1)	35人 (R3)	100.0%
性感染症・エイズ講習会実施数	(H)	20回 (H29)	26回 (H30)	23回 (R1)	42回 (R3)	54.8%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
○保健所による学校等への出前講習を実施。
○医療機関での針刺し事故対策として、エイズ治療薬を拠点病院に配備（更新）。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
令和2年3月末現在で、保健所による出前講座を23件実施した。
針刺し事故対策のエイズ治療薬の配備については、引き続き配備を実施。
また、令和元年11月17日に実施した休日のHIV無料検査会開催に関連して、MSMコミュニティのボランティア団体と連携して、予防や検査の普及啓発を行った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
（評価） ○	<p>県内のエイズ患者・H I V感染者は平成23年に過去最多となるなど、近年高止まりの傾向が続いている。感染拡大を防ぐため、感染リスクの高いMSMや今後リスクの高まる青少年等の個別施策層に対し、エイズに対する正しい知識や、早期発見・早期治療の普及啓発が必要。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
（評価） ○	<p>令和元年度に実施したH I V検査会では、ボランティア団体と連携してMSMをターゲットに広報活動を行い、36件のH I V抗体検査を実施した。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
（評価） ○	<p>MSM対策については、ボランティア団体のネットワークを活用し、効率的な検査普及活動ができた。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>岐阜県では、発症してはじめて感染が分かった人の割合が高く、適切な治療・感染予防を図るため、検査の重要性について積極的な普及啓発が必要。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>MSMに対しては、引き続きボランティア団体に協力を依頼していく。若年層に対しては、学校等での講習会を積極的に実施し、普及啓発活動を実施していく。</p> <p>また、エイズ治療拠点病院および保健所の職員を研修会等に派遣し、専門的知識を有する職員の育成を図る。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	